

厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)
総括研究報告書

医療費適正化に向けた生活保護受給者の生活習慣病罹患
および医薬品処方の実態調査：医療扶助レセプト分析
(H28-特別-指定-031)

研究代表者 高橋 由光 (京都大学大学院医学研究科健康情報学分野 准教授)
研究分担者 石崎 達郎 (東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長)
研究分担者 加藤 源太 (京都大学医学部附属病院診療報酬センター 准教授)
研究協力者 中山 健夫 (京都大学大学院医学研究科健康情報学分野 教授)
研究協力者 酒井 未知 (京都大学大学院医学研究科健康情報学分野 特定研究員)
研究協力者 大寺 祥佑 (京都大学大学院医学研究科健康情報学分野 特定研究員)
研究協力者 岩尾 友秀 (京都大学医学部附属病院医療情報企画部 特定研究員)

研究要旨

生活保護受給者の生活習慣病罹患および医薬品処方の実態を把握するため、平成 27 年医療扶助実態調査を用いて、レセプトデータ分析を行った。生活保護の被保護実人員 216 万名のうち、傷病名および医薬品情報より生活習慣病罹患割合を検討したところ、糖尿病 166,372 名 (7.7%, 分母は 2,161,442 名)、高血圧症 391,702 名 (18.1%)、脂質異常症 232,428 名 (10.8%)、3 疾患いずれか 518,082 名 (24.0%)、3 疾患すべて 51,010 名 (2.4%) であった。糖尿病患者の糖尿病治療薬の費用は、中央値 6139.0 円/月、高血圧症患者の高血圧治療薬は、中央値 2836.4 円/月、脂質異常症の脂質異常症治療薬は、中央値 2043.0 円/月であった。重複処方 (同月に、同分類の医薬品が、2 つ以上の医療機関より処方されている状態) を検討したところ、鎮痛薬 (経皮用剤・外用配合剤) 3.6%、鎮痛薬 (内服薬) 3.0% が、重複処方割合の高い医薬品であった。また、これら医薬品の処方件数も多く、ほぼすべての医薬品において、処方件数が多いと重複処方も比例的に増える傾向があった。重複処方については、重複処方割合および処方件数の両面より検討することが必要である。

A. 研究目的

生活保護受給者数は、約 215 万人（平成 28 年）と過去最多数を更新している。うち、高齢者世帯は 5 割を超え、医療扶助受給者も 8 割を超えており、多くの受給者が医療を必要としている。生活保護負担金 3.8 兆円のうち、医療扶助は 1.7 兆円と、ほぼ半分を占めている。健康日本 21（第 2 次）では健康寿命の延伸や健康格差の縮小等が掲げられており、健康管理支援の重要性が増しているが、生活保護受給者の健康施策は、健康管理支援事業 [1] のみと端緒に就いたばかりである。平成 27 年の経済財政諮問会議の経済・財政計画において、医療扶助等の生活保護制度の適正化が求められており、頻回受診、重複受診、重複処方等の適正化、後発医薬品使用推進などの対策を講じる必要がある。

生活保護受給者の「健康管理支援」と「医療費の適正化」を同時に推進することは切実な課題である。しかし、受給者の健康状態の実態はわからず、国レベルの分析も進んでいない。厚生労働省は、生活保護法による医療扶助受給者の診療内容の把握、被保護階層に対する医療対策等に必要な基礎資料収集のための医療扶助実態調査を実施しているが、より詳細な分析が望まれている。本研究では、医療扶助レセプトを活用し、受給者の生活習慣病等の健康状態の把握と、同一疾患での頻回受診、重複受診、重複処方の分析を行い、医療費算出のための基礎情報を収集することを目指している。

本研究は、以下の 3 つを明らかにする

ことを目的とする。（1）生活保護受給者の健康支援の観点から、介入を必要とする対象者を明らかにするため、代表的な生活習慣病である糖尿病、高血圧症、脂質異常症について検討を行う。レセプトに記載されている傷病名だけでなく、医薬品処方のデータも活用することでより正しい罹患状況を推測し、生活保護受給者の生活習慣病罹患の実態を明らかにする。（2）医療費の適正化の観点から、生活保護受給者の医薬品の情報の集計を行い、医療費算出のための基礎情報を収集する。（3）同一疾患の重複受診と頻回受診、複数の医療機関から同一内容の処方が短期間で処方されている重複処方の実態を明らかにする。

B. 研究方法

■データソース

医療扶助実態調査は、厚生労働省社会・援護局保護課が毎年実施している統計法に基づく一般統計調査である。福祉事務所が保管している医療扶助レセプトのうち、支払基金 6 月審査分（4・5 月診療分）の診療報酬明細書と調剤報酬明細書（以下、レセプト）を利用して行われている。今回は、平成 27 年医療扶助実態調査にかかわる調査票情報として使用された医療扶助レセプトを、統計法第 33 条の目的外利用申請を行って取得し、二次データ分析を行った。

■医療扶助実態調査のデータ整形

医療扶助実態調査は、医療機関から発出されたレセプトが、社会保険診療報酬支

払基金を經由して福祉事務所に保管されるとともに、福祉事務所において「生活保護等レセプト管理システム匿名化機能」を通じ匿名化され、都道府県・指定都市・中核市においてとりまとめられ厚生労働省社会・援護局に提出されたものである。しかしながら、提供されたデータは、NDBはじめ他のレセプト由来のデータとは異なった可変長のデータフォーマットであった。そのため、統計ソフトで解析できるように固定長のデータフォーマットに整形した(分担研究報告書(加藤担当)参照)。

■対象レセプトおよび名寄せ

医療扶助実態調査の患者数は、匿名化ID2と公費負担者番号をあわせたユニークなものを1患者と定義し、名寄せを実施した。診療年月は平成27年5月のものを利用した。なお、医科、調剤レセプトのみを対象とし、歯科レセプトは除いた。

■罹患の定義

生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)の罹患については、過大評価を避けるため、治療中の糖尿病、高血圧症、脂質異常症を対象とすることとし、傷病名と医薬品を用いて同定を行った(分担研究報告書(石崎担当)参照)。傷病名は、糖尿病(ICD10のE10-E14)、高血圧症(I10-I15)、脂質異常症(E78)とした。主傷病名だけでなく、主傷病コードのない傷病名も含めて検討を行った。さらに、「疑い病名」の削除についても検討したが、医療扶助実態調査には「疑い」情報(傷

病名レコードの修飾語コード)が含まれていなかったため、「疑い」の傷病名を除外することができなかった。医薬品については、「今日の治療薬」(南江堂)の「糖尿病治療薬」、「降圧薬」、「脂質異常症治療薬」に記載されている医薬品とした。また、糖尿病に関しては、合併症等と考えられるレセプト傷病名の頻度を算出した。

■医薬品の費用

医薬品に費用については、対象患者における糖尿病治療薬、高血圧治療薬、脂質異常症治療薬の医薬品の費用(該当の1か月)について代表値を算出した。

■重複処方

重複処方を、「同月(平成27年5月)に、同分類の医薬品が、2つ以上の医療機関より処方されている状態」とした。なお、「同分類の医薬品」について、(1)「今日の治療薬」および(2)「薬効分類」を用いて分類を行った。

処方人数	1医療機関以上より該当医薬品が処方されている患者数
重複処方人数	2医療機関以上より該当医薬品が処方されている患者数
重複処方割合	重複処方人数/処方人数

(1) 今日の治療薬

「今日の治療薬」より、「糖尿病治療薬」、「降圧薬」、「脂質異常症治療薬」に加え、

「抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、精神刺激薬」「抗不安薬、睡眠薬」「抗てんかん薬」「抗認知症薬」「鎮痛薬」について、成分、剤形を考慮して分類を行った。

(2) 薬効分類 (3 桁)

「日本標準商品分類番号」(6 桁) に従った分類である。薬効分類は、1-2 桁目の 87 (医薬品は 87) に続く 3-5 桁目 (3 桁) である (なお、6 桁目は成分を示し、3-6 桁目 (4 桁) を、薬効分類とみなす場合もある)。

レセプトには、「レセプト電算処理システム用コード」(9 桁) が含まれている (医薬品は、1 桁目が 6)。「医薬品マスター」により、「レセプト電算処理システム用コード」を「薬価基準収載医薬品コード」(12 桁) を紐づけることが可能である。「薬価基準収載医薬品コード」の 1-3 桁目 (3 桁) は、薬効分類 (3 桁) である。これらの情報をもとに、レセプト内の全医薬品を、薬効分類 (3 桁) で分類した。

■生活保護の被保護実人員数

生活保護の被保護実人員数については、厚生労働省が実施している被保護者調査 (月次調査・平成 27 年 5 月) の集計結果を用いた。なお、年代別検討においては、被保護者調査 (年次調査 (個別調査)・平成 27 年 7 月末日現在) を用いた [2]。

(倫理面への配慮)

医療扶助実態調査は、厚生労働省が実施する一般統計調査であり、統計法第 33 条に則り厚生労働省に申出を行った。承諾

後、調査票情報の提供を受け、解析を行った。利用および保管は、施錠可能な研究室 (2 か所) に限定し、研究室内に立ち入る職員をチェックした。利用時は、外部ネットワークとは接続されていない、ワイヤーで固定されているパソコンを用いた。コンピューターには、アンチウイルスソフトの導入、最新のセキュリティパッチの適用などのセキュリティホール対策、ID・パスワード対策、スクリーンロックなどの不正操作対策を施した。調査票情報 (転写 DVD-R) は、利用時以外はキャビネットに施錠の上保管し、中間生成物は、すべて、パスワードのかかる外付けハードディスクに格納し、パソコン内には蓄積しなかった。外付けハードディスクは、利用時以外はキャビネットに施錠の上、保管した。

C. 研究結果

■生活保護の被保護実人員

生活保護の被保護実人員は、2,161,442 名 (月次調査・平成 27 年 5 月)、2,127,841 名 (年次調査・平成 27 年 7 月) (男性 1,070,856 名、平均 56.0 歳) であった (表 1)。男女別、年齢別の被保護実人員については、両者のデータより、平成 27 年 5 月分を推測した (表 1, 2)。

■対象レセプトおよび名寄せ

医科レセプト 1,860,779 件、調剤レセプト 1,163,263 件であった。また、名寄せを行った結果、対象者は、1,518,388 名となった。

■罹患者数

レセプト傷病名および医薬品情報より罹患者は、糖尿病 166,372 名 (7.7%, 分母は 2,161,442 名)、高血圧症 391,702 名 (18.1%)、脂質異常症 232,428 名 (10.8%)、3 疾患いずれか 518,082 名 (24.0%)、3 疾患すべて 51,010 名 (2.4%) であった (スライド 12)。性別、年齢別の罹患者数、罹患割合は、表 2 および表 3 に示す。

■医薬品の費用

糖尿病患者の糖尿病治療薬の費用は、中央値 6139.0 円、平均値 7994.2 円、高血圧症患者の高血圧治療薬は、中央値 2836.4 円、平均値 3722.3 円、脂質異常症は、中央値 2043.0 円、平均値 3391.0 円であった (スライド 15)。

■重複処方

(1) 今日の治療薬

対象とした医薬品の中で、重複処方が多かったものは、鎮痛薬 (経皮用剤・外用配合剤) 3.65% (5,911/162,003)、鎮痛薬 (内服薬) 3.05% (3,835/125,767) であった。概ね、処方が多い医薬品ほど重複処方も多い傾向がみられた (図 1、表 4)。

(2) 薬効分類 (3 桁)

重複処方が多かったものは、鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤 5.29% (11648/220067)、解熱鎮痛消炎剤 5.25% (11,422/217,694) であった。概ね、処方が多い医薬品ほど重複処方も多い傾向がみられた (図 2、表 5)。

D. 考察

■罹患者数

医療扶助実態調査 (医療扶助レセプト) より、傷病名および医薬品情報から算出された、生活保護受給者の生活習慣病の罹患割合は、糖尿病 8% (男性 9%、女性 7%)、高血圧症 18%、脂質異常症 11%、3 疾患いずれか 24%、3 疾患すべて 2% であった。

同様の検討を行った、一般的な日本人に関する生活習慣病の罹患割合は明らかではない。NDB において、同様の検討を行う必要がある。

厚生労働省の 2015 年国民健康・栄養調査 [3] によると、20 歳以上の糖尿病有病者 (糖尿病が強く疑われる人：ヘモグロビン A1c (NGSP) 値が 6.5% 以上、又は、「糖尿病治療の有無」に「有」) の割合は、男性で 19.5%、女性で 9.2% と報告されている。収縮期 (最高) 血圧が 140mmHg 以上の者の割合は、男性 34.1%、女性 25.1%、血清総コレステロールが 240mg/dL 以上の者の割合は、男性 9.8%、女性 17.8% である。

本研究では、レセプトデータから、生活習慣病の罹患割合の検討を行った。医薬品が処方されていることも条件としているため、少なく見積もった場合の罹患割合と考えることができる。生活保護受給者の「健康管理支援」を検討する際の、下限の対象人数であると考えられよう。

今後の課題として、3 点挙げる。(1) 傷病名の再検討：I 型糖尿病、合併症、検査値異常の傷病名についても検討する必要がある。例えば、E10：インスリン依存

性糖尿病<IDDM>、G590：糖尿病性単ニューロパチ<シ>一、H360：糖尿病(性)網膜症 等であり、検査値異常 (R739：高血糖，詳細不明、R81：糖尿) についても検討を加える必要がある [4]。(2) 一部、医薬品が処方されているにも関わらず、レセプト傷病名が記載されていないと考えられるレセプトがみられた。両者の齟齬について、どのようなレセプト傷病名により該当医薬品が処方されているのか詳細を検討していく必要がある。(3) 医療扶助実態調査には、「疑い」病名(修飾語コード 0802「の疑い」)が収載されていないため、それらはずした検討をすることができなかった。「疑い」の情報の追加が望まれる。

■医薬品の費用

本年度は、該当する糖尿病治療薬、高血圧治療薬、脂質異常症治療薬の医薬品に限定して費用を算出した。医薬品に関しては、中央値、平均値ともに1万円未満/月であった。しかしながら、10万円を超える稀なケースも存在しており、個別のテール分析が必要であろう。

また、従来、例えば、「糖尿病の医療費」という形で算出される場合、糖尿病の患者が利用している全医療費(糖尿病とは関連のない疾患も含んだ医療費)が算出される場合があった。医療費は、各々の医薬品、診療行為、特定器材の累積である。そのため、今後、糖尿病関連医療費を算出するために、医療費関連の医薬品、診療行為を特定し、医療費の詳細な検討を行う予定である。

■重複処方

「今日の治療薬」による分類および「薬効分類」とともに、概ね、処方が多い医薬品ほど重複処方も多い傾向がみられた。鎮痛剤については、内服および外用ともに、重複処方の多い医薬品であるといえる。同時に、処方自体が多い医薬品であった。ほぼすべての医薬品において、処方が多いと重複処方も比例的に増える傾向があるため、重複処方が多いのは、処方人数が多いことが一因かもしれない。

また、「今日の治療薬」の分類では、精神科疾患および不眠症関連の医薬品について、処方人数に対し、重複処方割合が高い医薬品が散見された(図1)。薬効分類においては、「精神神経用剤」「睡眠鎮静剤、抗不安薬」は、他の医薬品と同様に比例関係がみられた。精神科疾患および不眠症関連の医薬品については、薬効を限定したうえで、重複処方について検討することが必要である。

また、健康保険組合加入者を対象にした先行研究 [5] において、生活習慣病関連治療薬では、処方人数に比し、重複処方が少ないことが示唆されている。それに対し、本研究対象では、他の医薬品と同様に比例関係がみられた。健康保険組合加入者では、生活習慣病に関して服薬コントロールができていないのに対し、本研究対象者では、コントロールできていない可能性が考えられる。

今後の課題として、2点記載する。(1) 医療扶助実態調査には、医療機関コード(7桁)が含まれていたが、本来、医療機

関は、都道府県コード（2桁）＋医療機関コード（7桁）の計9桁によってはじめてユニークに同定することができる。本研究では、医療機関コード（7桁）にて重複処方を特定したため、医療機関コードが同一の異なる医療機関にて処方された場合、正しく分類することができない。ただし、医療機関コードが同一であるケースは少なく、また、重複処方を検討するにあたり、医療機関コードが同一の、異なる医療機関を受診している可能性は極めて低いと考えられる。医療扶助実態調査において、都道府県コード（2桁）＋医療機関コード（7桁）の追加が望まれる。

（2）重複処方の改善のためには、患者、医療機関だけでなく、薬局、福祉事務所レベルでの取り組みも求められる。そのため、福祉事務所単位や、薬局を考慮した検討も必要であろう。

■限界

（1）傷病名および医薬品より罹患者を検討したが、傷病名の再検討が必要であろう。（2）医療扶助実態調査で提供されたデータは、レセプトから抽出された一部データであった。傷病名における「疑い」情報の欠損、医療機関コードにおける都道府県コードの欠損について、今後、追加されることが望まれる。（3）本研究のデータソースが、1か月の横断的なものである点、レセプトであり、検査値が考慮できない点も、注意を要する。（4）生活保護には、他法他施策の原則があり、これらの公費負担医療の対象となる場合、医療扶助レセプトからは把握できない。

例えば、自立支援医療（精神通院医療）制度の対象者の場合、精神疾患関連の医療費は自立支援医療（精神通院医療）制度により負担されるため、医療扶助レセプトには含まれない。今後は、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）などを用いた検討も必要であろう。

E. 結論

生活保護の被保護実人員 216 万名のうち、傷病名および医薬品情報より生活習慣病罹患割合を検討したところ、糖尿病 166,372名(7.7%, 分母は2,161,442名)、高血圧症 391,702名(18.1%)、脂質異常症 232,428名(10.8%)、3疾患いずれか 518,082名(24.0%)、3疾患すべて 51,010名(2.4%)であった。糖尿病患者の糖尿病治療薬の費用は、中央値 6139.0円、高血圧症患者の高血圧治療薬は、中央値 2836.4円、脂質異常症は、中央値 2043.0円であった。重複処方（同月に、同分類の医薬品が、2つ以上の医療機関より処方されている状態）を検討したところ、鎮痛薬（経皮用剤・外用配合剤）3.65%、鎮痛薬（内服薬）3.05%が、重複処方の割合の高い医薬品であったが、処方自体の多い医薬品でもある。ほぼすべての医薬品において、処方が多いと重複処方も比例的に増える傾向があった。重複処方については、重複処方割合および処方割合の両面より検討することが必要である。

■参考文献

[1] 厚生労働省. 生活保護受給者の健康管理の在り方に関する研究会.

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syakai.html?tid=214326>

[2] 厚生労働省. 被保護者調査.

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/74-16.html>

[3] 厚生労働省. 平成 27 年国民健康・栄養調査.

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000142359.html>

[4] 厚生労働省. 特定健診・保健指導の医療費適正化効果等の検証のためのワーキンググループ.

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000066373.html>

[5] Takahashi Y, et al. Social network analysis of duplicative prescriptions: One-month analysis of medical facilities in Japan. Health Policy. 2016 Mar;120(3):334-41.

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

3. その他

高橋 et al. 厚生労働省 第 5 回生活保護受給者の健康管理支援等に関する検討会 — (資料 3) 厚生労働科学特別研究事業報告. 2017/4/7.

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000161109.html>

H. 知的財産権の出願・取得状況

なし

表 1 基本属性（生活保護受給者）

	生活保護受給者 (5月)	生活保護受給者 (7月)	生活保護受給者 (5月推計)
人数, n	2,161,442	2,127,841	2,161,442
男性, n	NA	1,054,209	1,070,856
(%)	NA	(49.5%)	(49.5%)
年齢, 平均	NA	56.0	56.0
年齢カテゴリー			
0-19	NA	271,896	276,190
20-29	NA	59,865	60,810
30-39	NA	117,581	119,438
40-49	NA	231,119	234,769
50-59	NA	265,846	270,044
60-69	NA	483,072	490,700
70-79	NA	453,783	460,949
80-	NA	244,679	248,543

表2 基本属性・罹患者数（性、年齢別）

	生活保護受給者 (5月推計)	医療扶助 受給者	糖尿病	高血圧症	脂質異常症
人数, n	2,161,442	1,518,388	167,226	391,702	232,427
男性, n	1,070,856	717,719	92,672	190,362	96,915
女性, n	1,090,586	800,669	74,554	201,340	135,512
男性, (%)	(49.5%)	(47.3%)	(55.4%)	(48.6%)	(41.7%)
年齢, 平均	56.0	62.2	66.6	70.6	68.1
標準偏差	NA	(19.7)	(11.6)	(11.2)	(11.7)
年齢					
0-19	276,190	46,178	1	17	3
20-29	60,810	24,627	481	278	431
30-39	119,438	58,565	2,686	2,485	3,135
40-49	234,769	136,425	11,663	15,485	14,562
50-59	270,044	187,322	23,850	39,514	29,642
60-69	490,700	378,474	56,554	111,837	69,793
70-79	460,949	403,357	52,206	138,059	78,703
80-	248,543	235,101	19,677	83,974	36,096

表3 罹患割合（性、年齢別）

	糖尿病	高血圧症	脂質異常症
全体	7.7%	18.1%	10.8%
性別			
男性	8.7%	17.8%	9.1%
女性	6.8%	18.5%	12.4%
年齢カテゴリー			
0-19	0.0%	0.0%	0.0%
20-29	0.8%	0.5%	0.7%
30-39	2.2%	2.1%	2.6%
40-49	5.0%	6.6%	6.2%
50-59	8.8%	14.6%	11.0%
60-69	11.5%	22.8%	14.2%
70-79	11.3%	30.0%	17.1%
80-	7.9%	33.8%	14.5%

重複処方 今日の治療薬

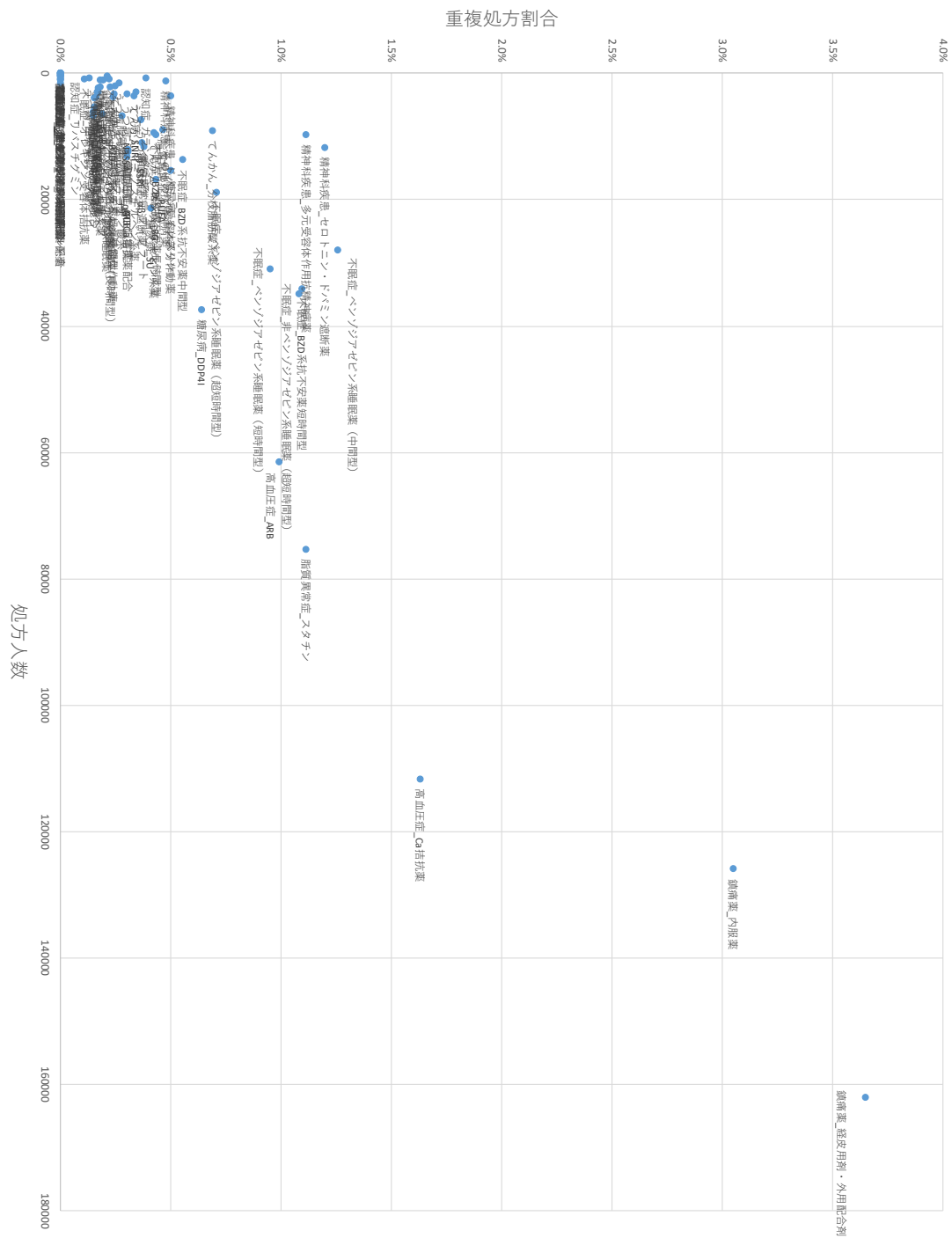


図1 処方人数と重複処方割合 (今日の治療薬)

表4 処方人数と重複処方割合（「今日の治療薬」の分類）

（「今日の治療薬」の分類）	処方人数	重複処方人数					重複処方割合
		合計	医療機関数				
			2	3	4	5	
うつ病							
NaSSA	3312	10	10	x	x	x	0.30%
SNRI	2916	10	10	x	x	x	0.34%
SSRI	7378	27	25	x	x	x	0.37%
その他の抗うつ薬	1498	x	x	x	x	x	0.27%
三環系抗うつ薬	3001	x	x	x	x	x	0.17%
四環系抗うつ薬	759	x	x	x	x	x	0.13%
てんかん							
アセチル尿素系薬	x	x	x	x	x	x	0.00%
イミノステルベン系薬	3561	12	12	x	x	x	0.34%
オキサゾリジン系薬	x	x	x	x	x	x	0.00%
サクシミド系薬	8	0	0	0	0	0	0.00%
スルフォンアミド系薬	8	0	0	0	0	0	0.00%
バルビツール酸系薬	1091	x	x	x	x	x	0.18%
ヒダントイン系薬	1107	0	0	0	0	0	0.00%
ヒダントイン系薬配合	221	0	0	0	0	0	0.00%
ベンズイソキサゾール系薬	969	0	0	0	0	0	0.00%
ベンゾジアゼピン系薬	9395	40	38	x	x	x	0.43%
新世代薬	2001	x	x	x	x	x	0.25%
分枝脂肪酸系薬	9106	63	62	1	0	0	0.69%
鎮痛薬							
内服薬	125767	3,835	3,681	142	x	x	3.05%
経皮用剤、外用配合剤	162003	5,911	5,651	240	x	x	3.65%
高血圧症							
ACE 阻害薬	12389	38	35	x	x	x	0.31%
ARB	61493	609	595	12	x	x	0.99%
ARB+Ca 拮抗薬	2898	x	x	x	x	x	0.17%
ARBCa 拮抗薬配合	12089	37	34	x	x	x	0.31%
ARB 利尿薬配合	3829	6	6	0	0	0	0.16%
Ca 拮抗薬	111678	1822	1756	64	x	x	1.63%
$\alpha\beta$ 遮断薬	11025	41	40	x	x	x	0.37%
α 遮断薬	6017	9	8	x	x	x	0.15%
β 遮断薬	2330	x	x	x	x	x	0.17%
サイアザイド系利尿薬	25	0	0	0	0	0	0.00%
降圧薬	398	0	0	0	0	0	0.00%
降圧利尿薬	3672	6	6	0	0	0	0.16%
降圧利尿薬	118	0	0	0	0	0	0.00%
中枢性交感神経抑制薬	624	0	0	0	0	0	0.00%
脂質異常症							
PUFA	8843	41	40	x	x	x	0.46%

〔「今日の治療薬」の分類〕	処方人数	重複処方人数					重複処方割合
		合計	医療機関数				
			2	3	4	5	
エゼチミブ	6362	12	11	x	x	x	0.19%
スタチン	75291	839	822	16	x	x	1.11%
ニコチン酸系	6785	19	19	0	0	0	0.28%
フィブラート	11631	44	44	0	0	0	0.38%
プロブコール	308	0	0	0	0	0	0.00%
レジン	235	0	0	0	0	0	0.00%
精神科疾患							
セロトニン・ドパミン遮断薬	11673	140	134	6	0	0	1.20%
その他の抗精神病薬	1257	6	6	0	0	0	0.48%
ドパミン受容体部分作動薬	3594	18	17	x	x	x	0.50%
多元受容体作用抗精神病薬	9773	109	99	10	0	0	1.12%
糖尿病							
BG	16848	73	72	x	x	x	0.43%
DDP4I	37362	240	236	x	x	x	0.64%
GLP1	1022	x	x	x	x	x	0.20%
IS 分泌促進	2205	x	x	x	x	x	0.18%
SU	21408	88	88	0	0	0	0.41%
αGI	13163	40	39	x	x	x	0.30%
インスリン	15294	77	75	x	x	x	0.50%
チアゾリジン	6752	10	10	0	0	0	0.15%
配合錠	1454	0	0	0	0	0	0.00%
認知症							
ガラントミン	771	x	x	x	x	x	0.39%
ドネペジル	5242	8	8	0	0	0	0.15%
メマンチン	952	0	0	0	0	0	0.00%
リバスチグミン	464	0	0	0	0	0	0.00%
不眠症							
BZD 系抗不安薬短時間型	34046	373	361	12	0	0	1.10%
BZD 系抗不安薬中間型	13692	76	76	0	0	0	0.56%
BZD 系抗不安薬超長時間型	3746	9	9	0	0	0	0.24%
BZD 系抗不安薬長時間型	9635	42	41	x	x	x	0.44%
オレキシン受容体拮抗薬	899	x	x	x	x	x	0.11%
セロトニン 1A 部分作動薬	896	x	x	x	x	x	0.22%
バルビツール酸系睡眠薬	472	x	x	x	x	x	0.21%
ベンゾジアゼピン系睡眠薬（短時間型）	30990	295	286	8	x	x	0.95%
ベンゾジアゼピン系睡眠薬（中間型）	27954	352	339	12	x	x	1.26%
ベンゾジアゼピン系睡眠薬（超短時間型）	18787	133	130	x	x	x	0.71%
ベンゾジアゼピン系睡眠薬（長時間型）	2192	x	x	x	x	x	0.23%
メラトニン受容体作動薬	3256	8	8	0	0	0	0.25%
非ベンゾジアゼピン系睡眠薬（超短時間型）	34904	378	362	14	x	x	1.08%

各セル内の人数が5以下の場合、xと表示

表5 処方人数と重複処方割合（薬効分類）

(薬効分類)	処方人数	重複処方人数								重複処方割合
		合計	医療機関数							
			2	3	4	5	6	7	8	
111 全身麻酔剤	2907	34	33	x	x	x	x	x	x	1.17%
112 催眠鎮静剤、抗不安薬	118058	3241	3092	132	13	x	x	x	x	2.75%
113 抗てんかん薬	17202	152	147	x	x	x	x	x	x	0.88%
114 解熱鎮痛消炎剤	217694	11422	10761	604	48	x	x	x	x	5.25%
116 抗パーキンソン剤	11173	128	123	x	x	x	x	x	x	1.15%
117 精神神経用剤	72981	1667	1582	77	6	x	x	x	x	2.28%
118 総合感冒剤	21522	176	168	7	x	x	x	x	x	0.82%
119 その他の中枢神経用剤	28424	226	225	x	x	x	x	x	0	0.80%
121 局所麻酔剤	145661	5832	5576	246	10	0	0	0	0	4.00%
122 骨格筋弛緩剤	7506	58	55	x	x	x	x	x	x	0.77%
123 自律神経剤	5005	15	14	x	x	x	x	x	x	0.30%
124 鎮けい剤	38832	480	466	12	x	x	x	x	x	1.24%
131 眼科用剤	137817	6805	6400	370	31	x	x	x	x	4.94%
132 耳鼻科用剤	53370	1166	1109	48	8	x	x	x	x	2.18%
133 鎮暈剤	15698	110	108	x	x	x	x	x	x	0.70%
211 強心剤	14782	91	85	6	0	0	0	0	0	0.62%
212 不整脈用剤	23798	124	122	x	x	x	x	x	x	0.52%
213 利尿剤	38903	335	333	x	x	x	x	x	x	0.86%
214 血圧降下剤	122771	2196	2125	65	x	x	x	x	x	1.79%
216 血管収縮剤	3515	8	8	0	0	0	0	0	0	0.23%
217 血管拡張剤	120943	2188	2107	78	x	x	x	x	x	1.81%
218 高脂血症用剤	96537	1392	1351	40	x	x	x	x	x	1.44%
219 その他の循環器官用剤	21509	133	130	x	x	x	x	x	x	0.62%
221 呼吸促進剤	2950	16	16	0	0	0	0	0	0	0.54%
222 鎮咳剤	26995	261	253	8	0	0	0	0	0	0.97%
223 去たん剤	51850	762	751	10	x	x	x	x	x	1.47%
224 鎮咳去たん剤	11090	78	78	0	0	0	0	0	0	0.70%
225 気管支拡張剤	42483	609	580	25	x	x	x	x	x	1.43%
226 含嗽剤	10020	55	54	x	x	x	x	x	x	0.55%
229 その他の呼吸器官用剤	15195	62	57	x	x	x	x	x	x	0.41%
231 止しゃ剤、整腸剤	62990	985	963	22	0	0	0	0	0	1.56%
232 消化性潰瘍用剤	199141	7965	7624	314	25	x	x	x	x	4.00%
233 健胃消化剤	14957	64	64	0	0	0	0	0	0	0.43%
234 制酸剤	64847	848	829	17	x	x	x	x	x	1.31%
235 下剤、浣腸剤	77847	1523	1464	58	x	x	x	x	x	1.96%
236 利胆剤	17119	50	50	0	0	0	0	0	0	0.29%
239 その他の消化器官用薬	64655	1248	1214	31	x	x	x	x	x	1.93%
241 脳下垂体ホルモン製剤	399	x	x	x	x	x	x	x	x	0.25%
242 唾液腺ホルモン剤	13585	49	47	x	x	x	x	x	x	0.36%
243 甲状腺、副甲状腺ホルモン剤	141	x	x	x	x	x	x	x	x	0.71%

(薬効分類)	処方人数	重複処方人数								重複処方割合
		合計	医療機関数							
			2	3	4	5	6	7	8	
244 タンパク同化ステロイド剤	97196	2867	2745	113	7	x	x	x	x	2.95%
245 副腎ホルモン剤	436	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
247 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤	2467	6	6	0	0	0	0	0	0	0.24%
248 混合ホルモン剤	2916	15	15	0	0	0	0	0	0	0.51%
249 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む）	26170	197	193	x	x	x	x	x	x	0.75%
251 泌尿器官用剤	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
252 生殖器官用剤（性病予防剤を含む）	5477	33	33	0	0	0	0	0	0	0.60%
253 子宮収縮剤	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
255 痔疾用剤	7817	52	52	0	0	0	0	0	0	0.67%
259 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬	27080	203	200	x	x	x	x	x	x	0.75%
261 外皮用殺菌消毒剤	25630	315	312	x	x	x	x	x	x	1.23%
263 化膿性疾患用剤	26147	346	341	x	x	x	x	x	x	1.32%
264 鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤	220067	11648	10978	622	43	x	x	x	x	5.29%
265 寄生性皮膚疾患用剤	18303	130	128	x	x	x	x	x	x	0.71%
266 皮ふ軟化剤（腐しよく剤を含む。）	7149	24	24	0	0	0	0	0	0	0.34%
267 毛髪用剤（発毛剤、脱毛剤、染毛剤、養毛剤）	507	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
269 その他の外皮用薬	7918	48	47	x	x	x	x	x	x	0.61%
271 歯科用局所麻酔剤	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0.00%
279 その他の歯科口腔用剤	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
290 その他の個々の器官系用医薬品	716	x	x	x	x	x	x	x	x	0.56%
311 ビタミンA及びD剤	23995	162	161	x	x	x	x	x	x	0.68%
312 ビタミンB1剤	17955	143	141	x	x	x	x	x	x	0.80%
313 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く）	53127	740	726	13	x	x	x	x	x	1.39%
314 ビタミンC剤	8328	40	40	0	0	0	0	0	0	0.48%
315 ビタミンE剤	1381	x	x	x	x	x	x	x	x	0.22%
316 ビタミンK剤	1318	x	x	x	x	x	x	x	x	0.30%
317 混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く）	38340	475	467	7	x	x	x	x	x	1.24%
319 その他のビタミン剤	486	x	x	x	x	x	x	x	x	0.82%
321 カルシウム剤	3853	9	9	0	0	0	0	0	0	0.23%
322 無機質製剤	19480	109	107	x	x	x	x	x	x	0.56%
323 糖類剤	27694	235	233	x	x	x	x	x	x	0.85%
325 タンパクアミノ酸製剤	16030	148	147	x	x	x	x	x	x	0.92%
326 臓器製剤	4064	21	20	x	x	x	x	x	x	0.52%
327 乳幼児用剤	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0.00%
329 その他の滋養強壮剤	457	x	x	x	x	x	x	x	x	0.22%
331 血液代用剤	171079	8053	7566	449	34	x	x	x	x	4.71%
332 止血剤	13070	76	75	x	x	x	x	x	x	0.58%
333 血液凝固阻止剤	39165	424	413	10	x	x	x	x	x	1.08%
339 その他の血液・体液用薬	66446	896	876	19	x	x	x	x	x	1.35%

(薬効分類)	処方人数	重複処方人数								重複処方割合
		合計	医療機関数							
			2	3	4	5	6	7	8	
341 人工腎臓透析用剤	410	6	6	0	0	0	0	0	0	1.46%
342 腹膜透析用剤	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
391 肝臓疾患用剤	32796	590	575	10	x	x	x	x	x	1.80%
392 解毒剤	25670	381	367	12	x	x	x	x	x	1.48%
393 習慣性中毒用剤	678	x	x	x	x	x	x	x	x	0.29%
394 痛風治療剤	32489	202	202	0	0	0	0	0	0	0.62%
395 酵素製剤	6382	23	23	0	0	0	0	0	0	0.36%
396 糖尿病用剤	55835	508	498	9	x	x	x	x	x	0.91%
399 他に分類されないその他の代謝性医薬品	151659	5051	4901	146	x	x	x	x	x	3.33%
419 その他の細胞賦活用剤	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
421 アルキル化剤	532	x	x	x	x	x	x	x	x	0.19%
422 代謝拮抗剤	3554	12	12	0	0	0	0	0	0	0.34%
423 抗腫瘍性抗生物質製剤	616	x	x	x	x	x	x	x	x	0.16%
424 抗腫瘍性植物成分製剤	3029	6	6	0	0	0	0	0	0	0.20%
429 その他の腫瘍用剤	7273	20	20	0	0	0	0	0	0	0.27%
430 放射性医薬品	2377	x	x	x	x	x	x	x	x	0.17%
441 抗ヒスタミン剤	19452	144	142	x	x	x	x	x	x	0.74%
442 刺激療法剤	1259	x	x	x	x	x	x	x	x	0.16%
449 その他のアレルギー用剤	70078	1217	1176	40	x	x	x	x	x	1.74%
510 生薬	655	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
520 漢方製剤	44699	627	610	17	0	0	0	0	0	1.40%
590 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	534	x	x	x	x	x	x	x	x	0.37%
611 主としてグラム陽性菌に作用するもの	3545	15	14	x	x	x	x	x	x	0.42%
612 主としてグラム陰性菌に作用するもの	8198	106	98	8	0	0	0	0	0	1.29%
613 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	50595	942	920	22	0	0	0	0	0	1.86%
614 主としてグラム陽性菌、マイコプラズマに作用するもの	14512	82	81	x	x	x	x	x	x	0.57%
615 主としてグラム陽性・陰性菌、リケッチア、クラミジアに作用するもの	2626	7	7	0	0	0	0	0	0	0.27%
616 主として抗酸菌に作用するもの	295	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
617 主としてカビに作用するもの	293	x	x	x	x	x	x	x	x	0.34%
619 その他の抗生物質製剤（複合抗生物質製剤を含む）	196	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
621 サルファ剤	985	x	x	x	x	x	x	x	x	0.20%
622 抗結核剤	271	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
624 合成抗菌剤	16921	105	104	x	x	x	x	x	x	0.62%
625 抗ウイルス剤	3773	18	18	0	0	0	0	0	0	0.48%
629 その他の化学療法剤	4632	x	x	x	x	x	x	x	x	0.11%
631 ワクチン類	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
632 毒素及びトキシソイド類	545	x	x	x	x	x	x	x	x	0.18%

(薬効分類)	処方人数	重複処方人数							重複処方割合	
		合計	医療機関数							
			2	3	4	5	6	7		8
633 抗毒素及びレプトスピラ血清類	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0.00%
634 血液製剤類	3191	12	12	0	0	0	0	0	0	0.38%
639 その他の生物学的製剤	2965	16	16	0	0	0	0	0	0	0.54%
641 抗原虫剤	309	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
642 駆虫剤	137	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
711 賦形剤	1487	x	x	x	x	x	x	x	x	0.13%
712 軟膏基剤	6503	21	21	0	0	0	0	0	0	0.32%
713 溶解剤	28709	538	516	20	x	x	x	x	x	1.87%
714 矯味、矯臭、着色剤	2215	13	12	1	0	0	0	0	0	0.59%
719 その他の調剤用薬	3127	33	33	0	0	0	0	0	0	1.06%
721 X線造影剤	26523	223	223	0	0	0	0	0	0	0.84%
722 機能検査用試薬	3766	7	7	0	0	0	0	0	0	0.19%
729 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く）	38072	646	618	24	x	x	x	x	x	1.70%
731 防腐剤	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
799 他に分類されない治療を主目的とし ない医薬品	21253	131	131	0	0	0	0	0	0	0.62%
811 アヘンアルカロイド系麻薬	2246	8	8	0	0	0	0	0	0	0.36%
812 コカアルカロイド系製剤	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
821 合成麻薬	5408	45	43	x	x	x	x	x	x	0.83%

各セル内の人数が5以下の場合、xと表示

参考情報（モーラス テープ 20mg）

「今日の治療薬」

10 鎮痛薬（非ステロイド抗炎症薬など）
 経皮用剤
 薬剤名（一般名）：ケトプロフェン
 薬剤名（商品名）：モーラス
 モーラス テープ 20mg（7×10 cm²）

医薬品コード

（請求コード、レセプトコード、レセプト電算処理システム用コード）

620007805 （「6」より始まる9桁）

※レセプトの医薬品レコード（IY）に含まれる医薬品レコード

※医薬品は「6」より始まる。

なお、請求コードは、診療行為は「1」、特定保険医療材料は「7」より始まる。

医薬品マスター

データ項目名	データ項目名内容	備考
変更区分	0	
マスター種別	Y	Y：固定
医薬品コード	620007805	医薬品は「6」より始まる9桁
医薬品名・規格名_漢字有効桁数	20	
医薬品名・規格名_漢字名称	モーラステープ20mg 7cm×10cm	
医薬品名・規格名_カナ有効桁数	12	
医薬品名・規格名_カナ名称	モーラステープ 20MG	
単位_コード	6	

単位_漢字有効桁数	1	
単位_漢字名称	枚	
新又は現金額_金額種別	1	
新又は現金額_新又は現金額	26.2	整数部「7桁」、小数点「1桁」及び小数部「2桁」の組合せで設定
予備	0	
麻薬・毒薬・覚せい剤原料・向精神薬	0	
神経破壊剤	0	
生物学的製剤	0	
後発品	0	
予備	0	
歯科特定薬剤	0	
造影（補助）剤	0	
注射容量	0	
収載方式等識別	0	
商品名等関連	0	
旧金額_金額種別	1	
旧金額_旧金額	28.4	整数部「7桁」、小数点「1桁」及び小数部「2桁」の組合せで設定
漢字名称変更区分	0	
カナ名称変更区分	0	
剤形	6	
予備		
変更年月日	20160401	
廃止年月日	99999999	
薬価基準コード	2649729S2169	12桁
公表順序番号	26762000	
経過措置年月日又は商品名 医薬品コード使用期限	0	
基本漢字名称	モーラステープ20mg	

診療報酬情報提供サービスより

<http://www.iryohoken.go.jp/shinryohoshu/searchMenu/doSearchInputYp>

<http://www.iryohoken.go.jp/shinryohoshu/file/spec/data.pdf>

薬価基準コード

(薬価基準収載医薬品コード、薬価コード)

2649729S2169 (12桁)

桁	英数字	説明	
1	<u>2</u>	(A)薬効分類番号 (3桁または4桁)	作用部位又は目的、薬効
2	<u>6</u>		成分又は作用部位
3	<u>4</u>		用途
4	<u>9</u>		成分
5	7	(B)投与経路および成分	内服薬：001-399
6	2		注射薬：400-699
7	9		外用薬：700-999
8	S	(C)剤形	内服薬の場合 A-E：散剤 F-L：錠剤 M-P：カプセル Q-S：液剤 T, X：その他
9	2	(D)上記A-Cによる同一成分内の規格単位ごとの番号	
10	1	(E)上記Dによる同一規格内の銘柄別の番号	
11	6		
12	9	(F)チェックデジット	

※個別医薬品コード (YJ コード) も、薬価基準収載医薬品コードと同様に英数 12 桁の同構成のコードだが、統一名収載品目の個々の商品に対して別々のコードが付与される。銘柄別収載品目 (商品名で官報に収載されるもの) については、薬価基準収載医薬品コードと同じ。

薬効分類

- 2 個々の器官系用医薬品
 - 26 外皮用薬
 - 264 鎮痛、鎮痒、収斂、消炎
 - 2649 その他の鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤

日本標準商品分類番号 (JSCC)

- 大分類 8－生活・文化用品
 - 中分類 87－医薬品及び関連製品
 - 小分類 87 2－個々の器官系用医薬品
 - 細分類 87 26－外皮用薬
 - 細々分類 87 264－鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤
 - 6桁分類 87 2649－その他の鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤

日本標準商品分類 より

http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/syuhin/2index.htm